

顔に白粉したる後、手に付たる白粉にて、兩耳をよくくすりこむべし、耳の白粉はうすきがよし、目立ざるやうにすべし、

首筋へ白粉をする傳

首筋へ白粉をするは、面よりは化粧を少し濃くぬるべし、まづ下へ油をぬり、其上へ白粉をぬるなり、かくのごとくする時は、白粉よくのびて、久しくはげる事なく、奇麗に見ゆるなり、

〔都風俗化粧傳〕化粧白粉をとく水の傳

白粉をとく水は、寒の中に雪をとりにて、壺に入、よく封じて置ば、雪消て清潔水となる、夏にいたり、此水にて白粉を解ば、よく光澤を出し、色を白ふして、汗瘡を治し、諸の顔の腫物を生ずる事なし、

白粉産地

〔毛吹草〕三山城 白粉 松尾白粉合土

〔人倫訓蒙圖彙〕六白粉師 京伊勢堺等におり、主領して國名を付なり、

〔諸國名物往來〕諸國名物盡

山城 白粉 和泉 白粉 伊勢 白粉

施粉具

〔女重寶記〕五女用器財 粉臺 輕粉皿

〔香取宮遷宮用途記〕一御裝束二具内

女體一具 ○中略

御帖紙二帖、紅薄様納白物少々 ○中略

御油壺三口、一口油綿、一口白物、一口丁子、

〔女諸禮集〕三嫁入の次第 路次中の次第

一十一番の長持 ○中略 おしろいばこ、おしろいとき、

〔婚禮道具諸器形寸法書〕地白粉モミ 長六寸二分、巾四寸三分、